



# 小腸カプセル内視鏡検査って何？

## 小腸カプセル内視鏡検査とは

超小型カメラを内蔵した長さ約26mm×幅約11mmのカプセルをビタミン剤のように口から飲み込んで行う内視鏡検査です。



カプセル内視鏡  
実物大

カプセルは消化管を通過しながら画像を撮影し、画像を記録装置に転送します。医師はこの画像をもとに小腸の診断を行います。



注意: カプセル内視鏡検査は、主治医の指導のもと適切な方法で実施してください。

# 小腸カプセル内視鏡検査の特徴

- 従来の小腸検査に比べ、物理的な苦痛が少ない検査です。
- 検査中は日常生活ができます。



- 検査開始2時間後からお水、4時間後から軽い食事を取ることができます。

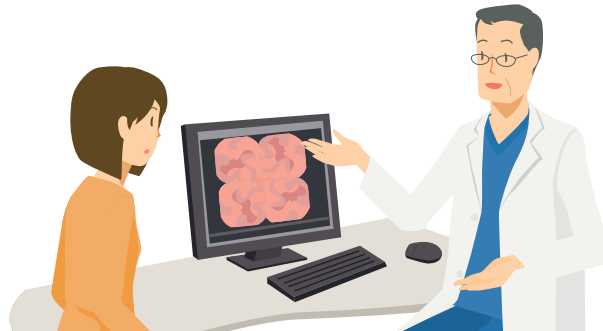


2時間後



4時間後

※ すべての医療行為にはリスクが伴う場合があります。安全かつ効果的にカプセル内視鏡検査が行えるように、検査に伴うリスクや禁忌(禁止事項)、適応症などについては、主治医から事前に説明があります。



## 小腸カプセル内視鏡検査は保険適用です

※ 保険適用の詳細につきましては、担当医師や検査施設にご確認ください。

# 小腸疾患の診断に役立ちます

小腸は、全長が6m~7mと長く、全消化管の75%を占める、体内で最も長い臓器です。前述の通りにカプセル内視鏡は飲み込んで行う内視鏡検査です。食べた物を運ぶように、自然な小腸の動きでカプセルを進めながら長い小腸内を直接撮影していきます。小腸内を直接観察し、クローン病や原因不明の消化管出血など小腸疾患の診断を物理的な苦痛が少なく行える検査です。



## 消化管開通性評価について

病気で消化管が狭くなっている場合は、小腸カプセル内視鏡検査を行う前に、消化管開通性確認用カプセルを使用してカプセルが消化管を問題なく通過できるかどうかの確認を行ってから、小腸カプセル内視鏡検査の実施の判断を医師がします。



消化管開通性確認用カプセル  
実物大